

科目名	LNG305: 音声学				担当教員	大澤 恵里	
開講期	秋	開講時限	火金2限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスアワー	P.28 参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
キーワード	母音、子音、音素、発音						
授業の概要	音声学の基礎的な理論を学び、知識を身につける。言語音声がどのように生成されるのかを学び、発音の向上につなげていく。主に英語音声についての講義・実習だが、日本語音声についてもふれる。 授業は主にパワーポイントを用いた講義形式で進めるが、講義内容を反映した発音やスピーチの実習も行ってもらおう。音声解析ソフト (Praat) を用いた音声分析も行う。						
達成目標および到達目標	<p>【達成目標 Course goals】 言語音声とは何かを学ぶことで、身のまわりの言語 (英語や日本語など) の音声への理解を深め、自身がかかえる音声上の問題 (発音など) を解決できるようにする。</p> <p>【到達目標 Learning objectives】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段何気なく使っている言語音声 (母語や外国語) に興味や関心を広げる。 ・ 習得した理論や知識を自身の発音やリスニングに反映する。 						
評価方法および評価基準	<p>【評価方法 Categories】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への積極的な参加(20%) : 発音・Transcription 実習 8回×2%, スピーチ実習 4% ・ 授業外課題(10%×3回=30%) : 授業外課題① (Transcription 練習問題) , 授業外課題② (日本語の母音図作成) , 授業外課題③ (授業内で練習する音声分析の実践問題) ・ 授業内テスト(25%×2回=50%) <p>【評価基準 Criteria】 評価基準の詳細については初回の授業時に配布する。</p>						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学習・復習
1	オリエンテーション 音声 (音) とは	講義	講義内容を復習する。
2	音声学とは 調音器官	講義	pp.15-20 を読んでくる。
3	調音方法	講義	pp. 15-20 を読む。 講義内容を復習してくる。
4	IPA 音声記号について Praat の紹介	講義 音声記号使用実習	音声記号の復習
5	英語の母音 ①高母音	講義 発音/リスニング実習	CD を聞いて復習する。
6	英語の母音 ②低母音	講義 発音/リスニング実習	CD を聞いて復習する。
7	英語の母音 ③二重母音	講義 発音/リスニング実習	CD を聞いて復習する。
8	ここまでの復習 Transcription 練習	講義 Transcription 実習	授業外課題①
9	英語の子音 ①閉鎖音	講義 発音/リスニング実習	CD を聞いて復習する。
10	英語の子音 ②摩擦音	講義 発音/リスニング実習	CD を聞いて復習する。
11	英語の子音 ③破擦音・鼻音	講義 発音/リスニング実習	CD を聞いて復習する。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学習・復習
12	英語の子音 ④側音・半母音	講義 発音/リスニング実習	CDを聞いて復習する。
13	ここまでの復習 Transcription 練習	講義 Transcription 実習	講義・実習内容を復習する。
14	復習 授業内テスト①	講義	講義内容を復習してくる。
15	授業内テストフィードバック 復習	講義	テスト直し・振り返り
16	英語のイントネーション	講義 発音実習	発音（スピーチ）練習
17	英語のアクセント	講義 発音実習	発音（スピーチ）練習
18	英語のリズム	講義 発音実習	発音（スピーチ）練習
19	復習 スピーチ実習	講義 発表	スピーチ練習
20	日本語の母音	講義	授業外課題②
21	日本語の子音 ①閉鎖音・摩擦音・破擦音	講義	音声記号復習
22	日本語の子音 ②鼻音・流音・わたり音	講義	授業外課題③
23	日本語のリズム 特殊拍	講義	講義内容を復習する。
24	東京方言アクセント	講義 方言紹介	講義内容を復習する。
25	音韻論 ①ミニマルペア	講義	講義内容を復習する。
26	音韻論 ②相補分布・自由変異	講義	講義内容を復習する。
27	音韻論 ③音韻規則	講義	講義内容を復習する。
28	学期の総復習	講義 まとめプリント記入	プリントを復習する。
29	復習 授業内テスト②	講義	ここまでの復習をしてくる。
30	授業内テストフィードバック 質疑応答	講義	質問を考えてくる。 テスト直し

テキスト	竹林滋、清水あつ子、斎藤弘子共著 『改訂新版 初級英語音声学』 大修館書店
参考書	窪園晴夫 『音声学・音韻論』 くろしお出版 Peter Ladefoged. <i>A course in Phonetics</i> . 4 th ed. Heinle & Heinle.
履修条件、 前提科目	
その他 特記事項	日本語の音声に関する講義はテキストを使用せず、プリント（音声記号などを載せた）を配布し、使用する。

評価基準 Evaluation Criteria

評価基準が、上記「評価方法および評価基準」項目に入らない場合は、以下の項目にご記入ください。調整の結果、シラバスに余白ができた場合、以下記載欄を「評価方法および評価基準」に移す場合がありますのでご了承ください。

If your Evaluation Criteria will not fit into the 11 lines available in the 「評価方法および評価基準」 section above, please write them in the box below. If we later determine that there is enough space, we may move them up into the 「評価方法および評価基準」 section.

評価基準	<ul style="list-style-type: none">・授業への積極的な参加：授業内実習への参加を評価する。Transcription 実習は練習問題への取り組み方を、また発音・スピーチ実習は講義後の発音練習への参加を評価する。・授業外課題：講義内容の正しい理解とその知識の適切な使用を以下の点で評価する。 ①：音声記号を適切に使用できる。②：日本語の母音について理解し、授業で説明する方法を使用して母音図を作成できる。③：英語・日本語の音声（母音・子音）の特徴を説明でき、その知識を使って音声分析を行える。・授業内テスト：基礎的な理論や知識が身についているかを評価する。テストでは用語の意味や理論の説明が求められる（説明は論述式の問題となる）。また、授業内実習と同類の問題（授業外課題とは別のもの）も含まれる。
------	---